

2024年12月6日
株式会社 竹中土木

Deep Mixing 2024 国際会議が開催されました

～深層混合処理工法の重要性および可能性について改めて情報発信～

株式会社竹中土木（本社：東京都江東区、取締役社長：竹中祥悟）等 47 社が参画する CDM 研究会（※1）、港湾空港技術研究所、DJM工法研究会ならびに公益社団法人地盤工学会の共催にて、深層混合処理工法を題材にした国際会議「Deep Mixing 2024（通称：DM2024）」（※2）が 2024 年 12 月 2 日から 5 日にかけて開催されました。

日本において主要な都市は地盤条件の悪い沿岸地域に集中しているため、港湾を始めとする多くの構造物は軟弱地盤上での建設を余儀なくされます。また、大雨、地震、台風など激甚化する自然災害に耐え、機能を維持していく必要があります。そのような中で深層混合処理工法は、これらの課題を克服する技術として開発されてきたものであり、今般の「DM2024」では、従来の基本テーマに加えて深層混合処理工法における ICT と BIM の活用、CO₂ 排出削減などによる SDGs への貢献について議論され、本工法が世界的にさらに普及し、各国の社会資本の整備・充実に貢献していくことの重要性について改めて情報発信されました。

基調講演では、国内外における現在の多様な深層混合処理工法の紹介ならびに今後の展望が語られ、深層混合処理工法における技術革新の歴史について改めて振り返りました。

特別講演では CDM 工法の新たな利用法、地盤改良施工機械の自動運転システムの開発と施工事例など、参加各国より近年の事例および技術の進展についての説明がなされました。

また、12 月 4 日に実施されたサイトビジットでは、横浜港新本牧埠頭にて施工中の CDM 船に参加者の一部が実際に乗船し、最新の施工システムによる施工状況などを視察しました。

※1 1975 年以来、旧運輸省港湾技術研究所と竹中土木が先行して開発を進めてきた DCM 工法（セメントスラリーを用いた機械攪拌式の深層混合処理工法）の普及を図るべく、1977 年、並行して同タイプの工法開発を進めていた有志企業 5 社を集い設立、高性能の施工機械の開発や設計法に関わる研究を官民一体となって取り組み、深層混合処理工法の普及と技術の向上を図ってきた研究会。港湾、空港、道路、河川、都市土木などあらゆる分野の地盤改良対策に適用され、今日までの処理土量は累計で 9,750 万 m³に達する。

※2 Deep Mixing 国際会議とは

深層混合処理工法について世界的な普及や参加各国による技術や研究の発表により親交を深めることを目的に開催される国際会議で、1996 年に第 1 回会議が東京で行われ、およそ 4 年に 1 度開催され、今回で 8 回目を迎えます。日本では 2009 年に沖縄で開催されて以来 15 年振りの開催となりました。次回はオーストラリアでの開催が決定されています。

1. DM2024 開催概要

日 時： 2024 年 12 月 2 日（月）から 5 日（木）
場 所： 横浜ランドマークタワー 25 階（TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワー）
参加人数： 142 名
参加国等： 18 か国

2.当日写真

- オープニングセレモニーで挨拶する CDM 研究会 竹中康一会長（株式会社竹中土木取締役会長）



- 12月2日～3日 基調講演および各種講演、ワークショップの様子



- 12月4日サイトビジット（左）および12月5日テクニカルツアー（右）の様子



3.関連団体・企業ホームページ

港湾空港技術研究所

<https://www.pari.go.jp/>

CDM 研究会

<http://www.cdm-gr.com/>

DJM 工法研究会

<https://www.djm.gr.jp/>

公益社団法人地盤工学会

<https://www.jiban.or.jp/>

株式会社竹中土木

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社竹中土木

経営企画室広報グループ 櫻井 Tel : 03 - 6 8 1 0 - 6 4 9 3

E-mail : sakurai-a@takenaka-doboku.co.jp